

事務事業名	英語・漢字検定助成事業				担当	教育委員会 学校教育課 教育政策係		
政策名	1	「人づくり」～豊かなこころアップ!～			☒ 総重（総合計画重点事業） ☐ 戦拡（総合戦略拡充事業）	☐ 総新（総合計画新規事業） ☐ 戦新（総合戦略新規事業）		
施策名	3	国際化に対応した教育						
関連個別計画	真岡市子ども・子育て支援事業計画				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 毎年度実施（開始年度 R1 年度～） ☐ 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）		
法令根拠								
予算科目	1.一般会計	10.教育費	1.教育総務費	3.教育振興費				
予算科目								
予算科目								
事業概要	英語能力および日本語能力の育成を通して、言葉や文化のもつ素晴らしさを知り、自分の考えや思いを伝え合い、新たな見方・考え方を創造できる「真岡っ子」を育成するため、英語検定料・漢字検定料を助成する。							

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

① 手段（主な活動）				④活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移							
6年度実績 ・英語検定料助成人数 184人 ・漢字検定料助成人数 75人 7年度計画 ・英語検定料助成人数 257人 ・漢字検定料助成人数 110人				名称		単位	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(実績)	6 年度(実績)	7 年度(見込)
				ア 英語検定料助成人数		人	247	227	237	184	257
				イ 漢字検定料助成人数		人	60	83	81	75	110
				ウ							
				エ							
				オ							
② 対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 次のいずれかに該当する児童生徒の保護者 ・真岡市立小学校又は中学校（以下「市立学校」という。）に在籍する児童生徒 ・市内に在住し、市立学校以外の小学校、中学校、義務教育学校又は、特別支援学校の小学部若しくは中学部に在籍する児童生徒 ・その他、真岡市教育委員会教育長が必要と認める児童生徒				⑤対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移							
				名称		単位	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(実績)	6 年度(実績)	7 年度(見込)
				ア 市内在住小中学校児童生徒数		人	6,730	6,591	6,434	6,183	6,004
				イ							
				ウ							
				エ							
				オ							
③ 意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 英語検定料・漢字検定料を助成することにより児童生徒の受検への意欲を高め、英語能力および日本語能力の育成を通して、言葉や文化のもつ素晴らしさを知り、自分の考えや思いを伝え合い、新たな見方・考え方を創造できる能力を高める。				⑥成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移							
				名称		単位	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(実績)	6 年度(実績)	7 年度(見込)
				ア 児童生徒数に対する英語検定料助成人数の割合		%	3.7	3.4	3.6	3.0	4.2
				イ 児童生徒数に対する漢字検定料助成人数の割合		%	0.9	1.3	1.3	1.2	1.8
				ウ							
				エ							
				オ							
② 総事業費の推移				単位	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(実績)	6 年度(実績)	7 年度(見込)		
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0		
			県支出金	千円	0	0	0	0	0		
			地方債	千円	0	0	0	0	0		
			その他	千円	0	0	0	0	0		
			一般財源	千円	557	548	579	498	674		
	事業費計（Ａ）			千円	557	548	579	498	674		

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 市の政策体系に結び付き、社会環境や住民ニーズ等を考慮した上で目的は妥当か？	☒ 見直し余地はない ☐ 見直し余地がある (評価理由) 英語検定料・漢字検定料を助成することで英語能力および日本語能力の育成を図り、児童生徒の「外国人とのコミュニケーション能力の向上」に結びつく。
	②公共関与の妥当性 市が事業に関与する必要があるか？	☒ 見直し余地はない ☐ 見直し余地がある (評価理由) 市内すべての児童生徒を対象に助成を行うことで学習意欲が高まることから、市教育委員会が行うべき事業であり、妥当である。
	③対象と意図の妥当性 ・1枚目の②「対象」③「意図」は適切か？ ・対象を限定・追加する必要があるか？ ・意図を限定・追加する必要があるか？	☒ 対象・意図を見直す必要はない ☐ 対象を見直す必要がある ☐ 意図を見直す必要がある (評価理由) 市内の全小中学校児童生徒を対象としており、妥当である。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるかどうか？ない場合の理由は適切か？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	☐ 向上余地はない ☒ 向上余地がある (評価理由) HP、広報紙、リーフレットの配布により周知活動を行っている。また、R5年度からオンライン申請を活用し、対象者の利便性を図っている。 しかしながら、助成人数の減少が見られたことから、原因を分析するなど、検証する必要がある。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 ・類似事業はないか、統合や連携はできないか？	☐ 類似事業と統合・連携ができる（類似の事務事業名： ） ☐ 類似事業と統合・連携できない（類似の事務事業名： ） ☒ 類似事業はない (評価理由) 他に類似事業はなく、統合・連携できない。
効率性評価	⑥事業費の削減余地 ・成果を下げずに実施主体の見直しによりコスト削減をできないか？ ・実施方法の適正化によりコスト削減をできないか？	☒ 削減余地がない ☐ 削減余地がある (評価理由) 申請に基づく助成であり、最低限の事業費である。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性（改進黨・実行計画） ☐ 廃止 ☒ 見直し（☐：目的妥当性 ☒：有効性 ☐：効率性） ☐ 統合 ☐ 継続 助成人数の減少について検証が必要である。	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td style="background-image: linear-gradient(to bottom right, transparent 49%, black 49% 51%, black 51% 55%, transparent 55%); background-size: 2px 2px;"></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td style="background-image: linear-gradient(to bottom right, transparent 49%, black 49% 51%, black 51% 55%, transparent 55%); background-size: 2px 2px;"></td> <td style="background-image: linear-gradient(to bottom right, transparent 49%, black 49% 51%, black 51% 55%, transparent 55%); background-size: 2px 2px;"></td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持				低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上		○																			
	維持																					
	低下																					
(2) 課題、課題の克服の方向性 令和6年度の助成人数について検証し、より多くの方に申請してもらえるよう努める。																						

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 ☐ 記述説明不足(説明責任不充分) ☐ 評価内容が客観性を欠く ☐ 評価内容は客観的と言える																							
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ②有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ③効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり																							
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的絞込み ☐ 目的拡充 ☐ 事業統廃合 ☐ 事業のやり方改善 ☐ 予算削減 ☐ 予算増大 ☒ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項 利用者数の減小の原因分析を行い、必要に応じてやり方改善の対応をすること。																						
(5) 改革・改善による期待成果																							
<table border="1" style="margin: auto; border-collapse: collapse;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">/</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">/</td> </tr> </table>					コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持			/	低下			/
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上		○																				
	維持			/																			
	低下			/																			